



春の訪れ ぶきのとう



第130号
平成28年 3月
発行元
高清水寿光園

『より良いケア』とは

介護係長 佐藤 恵子

この表紙を飾る重要な原稿を依頼された時、福祉の現場経験しかない私は『さて何を書けば良いのか?』と途方に暮れました。最後の赴任地となった寿光園の屋根の下での想いについて触れたいと思いました。

寿光園の介護目標は数項目あります。その中でも『認知症ケア』と『看取りケア』の二項目については、委員会を設けた上で力を入れて取り組んでおります。認知症ケアにおいては、今年度は『ユマニチュード』という認知症ケアの手法を用いております。このユマニチュードとは「見る・話す・触れる・立つ」というコミュニケーションの四つの柱を基本とし、『大声で叫んだり、暴力的になったりするBPSD(周辺症状)』を呈した人でも、ケアされるととても穏やかな表情を見せることから『魔法のように』と表されます。この手法を取り入れた今では、利用者様の思いがけない意欲的な行動や、生き生きとした表情が見られるようになりました。無表情であった方が見せてくれたほんの一瞬の輝く笑顔を見た時の喜びはひとしおで感激を憶えました。そしてそれを引き出すことが出来た時の喜びは、毎日の仕事に追われる職員にとっては、すばらしいプレゼントを頂いたようであり、また次のステップに向かっていけると感じさせてくれるものでした。人はいくつになってもどのような状況におかれても『褒められる』と嬉しいものです。その表情を見るとこちらまで心が熱くなり、この仕事をしていて

良かったと思います。看取りについては、前まで勤務してきた施設では、利用者様の状態の急変をいち早く察知し、『命』を守るといふ事に使命を持って対処してきました。それに対して当施設では『命』の灯火が消えるのを見守るといふ真逆の立場におかれています。勤務当初は戸惑いを憶えたものです。看護師に『体調を崩された利用者様への治療とは?』と問いかけた際、『看取り』という言葉が聞きました。しかしそこからはいったい何をすれば良いのかを自問自答する日々の始まりでした。そのような中で試行錯誤を繰り返して、『良い看取り』とは、普段と変わらず接し安心出来る自然な環境の中で旅立たれていくことだと思ふに至りました。職員が寿光園の屋根の下でのご縁を大切に繋がる事で、何か特別な事をやるのではなく、常日頃から心の対話を心がける事により信頼関係を築いていく、そのように考えるようになったのです。

利用者様の最期の表情はとても穏やかなものです。しかしその表情は人生の中で一番輝いていただろうと想わされる表情を見せてくれます。ご家族様とは常日頃から心の対話を心がけることにより信頼関係を築き、より良い看取りにしていけるよう努めております。ご家族様が利用者様と共に施設を後にする際に、『ありがとう』と何度も頭を下げられた時、心の繋がりを実感し、この仕事をしていて良かったと思えます。

この二つのケアを通じて、その場限りで終わるのではなく、継続していくことが『より良いケア』に繋がっていくと信じています。

寺内地域包括

『地域包括支援センター』は、地域にお住まいの高齢者の皆様が安心して生活を続けていけるよう、『何でも』ご相談をお受けしている総合相談窓口です。ご本人からでも、ご近所の方のことで、離れて暮らすご両親のことでかまいません。「こんな事を聞いても大丈夫かしら?」なんて遠慮もいりません。担当の包括は市町村の窓口からも問い合わせ出来ます。個人の秘密は守られますのでお気軽にご相談下さい。



直通 ☎
018-853-6300

寿光園居宅

事業所には現在4名の介護支援専門員が地域で暮らしている皆様の悩みや相談事に応じ、その人がその人らしく生活できる様に支援させて頂いております。生活環境・介護環境は一人ひとり異なりますが、そのような皆様一人ひとりに適したサービスプランを提供するよう心がけています。私達は、地域の皆様の個々の生活に関わらせてもらう中で、人生の勉強をさせて頂いていると感じております。そのような経験を積み重ねてもらった介護支援専門員が対応させて頂きますので、一人で悩まず不安を抱かず、一緒に考えましょう。お気軽にお電話ください。

直通 ☎
018-893-5761

ヘルパーステーション

『住み慣れたご自宅での、日々の暮らしのお手伝いをいたします。』

居室の清掃・調理・洗濯・買い物などの日常生活上の必要なサービスや、入浴介助・外出介助をベテランヘルパーがおこなっております。

丁寧な介護、サービスで安心感を持っていただけるように、また、ヘルパーの訪問を楽しみにして下さるよう、これからも信頼されるヘルパーステーションを目指して参ります。



ショートステイ

ご本人様の心身の状況や、ご家族様の精神的・身体的な介護負担の軽減を図る為、短期間施設入所し、日常生活上の支援や機能訓練等を行っております。『急に身体を動かす事ができず、自宅で過ごす事が難しくなった』『在宅介護をしているが、時々休む時間がほしい』『冠婚葬祭等で一時的に自宅で介護をする事が難しい』等、ご利用者様、ご家族様のご要望に応じ、一時的にショートステイを利用される事で、在宅生活を継続する為のお手伝いができればと思います。



編集後記

今年の冬は、暖かかったり寒かったりと、まるでジェットコースターのような冬となりました。そのためか例年以上に感染症が発生した冬でもありました。当施設でも感染症の発生が見られましたが、広報発行時点では収束しておりますのでご安心頂きたいと思っております。

三寒四温と日々春に向かっていく今日この頃ですが、これからもご利用者様一人ひとりに寄り添い、笑顔の桜を咲かせていただけるよう接していきたいと思っております。(広報編集委員一同)

職員募集

- ・ 看護師
- ・ ヘルパー
- ・ 調理員

詳しくは018-880-1050 (石田) までご連絡ください。

2東

2東フロアでは、101才の最年長の方を初めとして32名の利用者様が生活されております。リハレク活動の一環として軽体操のDVDを見ながら自分のペースで手足を動かすレクリエーションを行い、皆さんと交流を図っております。また、食事の際は出来るだけ食堂で一緒に食事を召し上げて頂きふれあいを大切にしております。今後も利用者様にとって良い環境の元、安心して生活して頂けるように支援して参りますのでよろしくお願いいたします。



特 養

平成27年度 各フロアの取り組み

2北

私達2北は60～90歳代までの幅広い年代の方々が過ごされているフロアです。談話室や食堂からは、キラキラ輝く海やセリオタワーが見える寿光園(いち)の眺望が自慢です。毎日の生活の中で出来ることを無理せず、ラジオ体操やエプロンたたみ等を楽しみながら行っております。認知症の利用者様が増えてきておりますが、職員は日々勉強して支援して参りますのでよろしくお願いいたします。



1東

1東フロアは女性の方々がご利用されているフロアです。寿光園最年長の102歳の方から70歳代の方までご自身の生活のペースを大切に日々過ごされております。季節に沿った装飾作りや貼り絵などの手先を使った作業や、園内散歩など活発に活動される方、お部屋で過ごすことの多い方には笑顔で過ごすことの出来るよう言葉掛けや気分転換の機会を設け、それぞれが楽しみを持てるように職員一同対応して参りますのでよろしくお願いいたします。



介 護 取 組

1階フロアは生活全般において介護を必要とする方、身の回りの事はある程度ご自身で出来る方など年齢も介護度も様々な方が過ごされております。日々の生活の中でタオル・食事用エプロンを畳んだり、加温用のタオル掛けなど『自分が出来ること』を無理なく行っていただいております。今年度は介護力向上の取り組みとして、生活の基本でもある食事について『口から食べる楽しみ』、軽作業や簡単な運動を通して身体を動かす『残存機能を活かす』など、個々に応じた取り組みを行ってまいりました。介護員の意識やチームワークの向上に繋がったことは大きな成果でもあり、それ以上に利用者様の笑顔が多く見れた事は私達介護員の自信にもなりました。今後も多くの笑顔を引き出せるように心を込めた介護を提供して参ります。

2階フロアでは介護力向上に向けて2つのテーマに取り組みました。まずは『ユマニチュード』の手法で対応することです。4つの柱(見る・話す・触れる・立つ)を基に同じ目線で語りかけるという敬意を込めた技法で、認知症状の改善傾向や、表情にも変化が見られる等、ご利用者が心地よく感じる対応を心がけました。続いての取り組みは、検知器のスイッチの入れ忘れによるヒヤリハット報告や転倒などが続いたことから、検知器のスイッチの入れ忘れが無いよう時間を決めてチェックをしました。改めて確認することで職員の意識にも変化が見られ、大きな事故を起こす事なく改善されてきております。今後も利用者様が安心・安全に過ごせますよう支援して参ります。

1北

寿光園唯一の特養・ショート併設フロアであり、ショートのご利用状況によってフロア内の雰囲気も変化する、ある意味特別なフロアです。平均介護度4.3と介護度の高い利用者様や経管栄養のご利用者が多いため、日々身体状況の把握と適度なコミュニケーション、そして整容面に力を入れて取り組んでおります。最高齢の山本イキ様は現在99歳。今年9月に100歳を迎えられます。今後もお一人お一人の気持ちに寄り添ったサービス提供を心がけ、沢山の笑顔と心からの「ありがとう」「良かった」の言葉を頂けるよう支援して参りますのでよろしくお願いいたします。

